

平成 20 年 2 月 4 日

## 第 2 WG の進め方(案)

## 1. 想定される論点

## (1) 経済統計の体系的整備

- SNA 及び各種統計ニーズを踏まえた統計間の整合性・網羅性などに基づく一次統計の整備
- SNA と一次統計の連携の確保

考え方： 統計整備における「体系的」については委員会でも議論があったが、経済統計に関しては SNA を基準として一次統計をマッピングし、相互の諸概念や会計原則の整合性や、網羅性の検証を通じて統計整備の具体的方策を導くことが可能。SNA の主要項目推計の鍵となる統計情報がどれだけ整備されているかをまずマッピングを踏まえて分析を行い、SNA の推計方法を再検討するとともに、必要に応じて新規統計調査の実施に加えて、既存統計調査の項目の変更・追加や行政記録の活用等によって GDP 統計の精度（確報）も高めていくべき。

- GDP 統計の精度向上（頑健性の向上など）

考え方： 概念的な精確性のみならず経済構造の変化、制度の変更、一次統計のノイズなどに対して「頑健性」が高いことも重要。その際、「変化率の頑健性」の視点も重要。

- IO 基本表と SNA の整合性確保

考え方： IO 基本表は SNA の重要な推計基礎資料として利用されていることにかんがみ、整合性を図りつつ、両者が共にその精度の向上を図っていく見地から、双方の現状の問題点を洗い出した上で必要な措置や、解決のための具体的検討体制、期限などを明示すべき。

## (2) 景気判断への有用性向上

- QE の精度向上（変化率のノイズの低減、他の指標との整合性など）及び公表項目の検討

- 一次統計の新設・拡充、誤差縮小、断層修正手法の改善（継続サンプルの充実など）など

考え方： 経済財政運営当局やマーケットのニーズの高いQE、主要動態統計の精度向上、ノイズの除去などのための明確な措置を示し、景気判断のためのインフラとしての機能を向上させるべき。

### (3) 重点的・戦略的な統計整備

考え方： 経済構造の変化に対応し、優先的に整備すべき分野を決定するのも統計委員会の役割。取り上げる分野は或る程度絞り込む必要。分野の設定に当たっては、2008年度骨太と呼応させるという考え方もあり得る。

#### ① 企業活動関連統計整備（特にサービス統計、グローバル化関連統計、経済センサスのあり方）

考え方： 観光等の未整備のサービス分野の統計や企業の生産・投資・財務の意思決定に密接に関連するグローバル化の進展に対応するために、海外進出の状況を把握できる統計の整備が必要。また、経済センサスの平成21年、23年調査後の長期的なあり方についても検討が必要。

#### ② 資本ストック統計整備

考え方： 生産性向上を中心とした成長戦略を策定する上で、ストック統計（産業別等）の拡充は喫緊の課題。※ただしSNA部会との連携（調整）が必要。

#### ③ 労働統計整備

考え方： 労働統計については、労働市場や雇用形態の変化を適切に捉える概念の検討や近年のフリーターなど非正規の雇用形態での働き方を把握する等の統計が必要。※ただしWG3との連携（調整）が必要。

④公的部門に関する統計整備

考え方： 財政統計等の公的部門に関する統計は、QEを含めたSNAの公的支出の正確な推計に不可欠であるとともに、公的部門の役割や評価を議論する際のベースであり、中央政府と地方政府について、統一かつ早期に情報を活用しうる方策の確立が必要。

⑤経済格差に関する統計整備

考え方： 近年関心が高まってきた格差問題は社会保障政策のあり方と密接に関連しており、多様化する雇用と賃金の実態を明らかにしうる統計とともに適切な分布統計（貧困・所得・資産等）の整備が必要。

⑥環境統計整備

考え方： 環境問題に係る国際的な議論に供しうる環境関連統計の充実が不可欠。

(4) 基幹統計の指定

(1) から (3) までの議論を踏まえるとともに、第1WGの検討結果に基づき、既存統計の統廃合を含め検討した上で、基幹統計として指定すべきものを具体的に明記。

## 2. スケジュール（案）

日程	WG	内容
2月4日（月）	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 座長ペーパー説明</li> <li>● フリートーキング</li> </ul>
2月20日（水）	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フリートーキング</li> <li>● 担当分野決定</li> </ul>
2月下旬	第3回	● 政策担当部局ヒアリング①
3月	第4回	● 政策担当部局ヒアリング②
	第5回	● SNAからみた一次統計整備①
	第6回	● SNAからみた一次統計整備②
4月	第7回	● SNAとIO
	第8回	● 景気判断関連統計①
	第9回	● 景気判断関連統計②
5月	第10回	● 個別分野（1）
	第11回	● 個別分野（2）
6月	第12回	● 個別分野（3）
	第13回	● 中間報告骨子案の検討①
7月上旬	第14回	● 中間報告最終案の検討②

※労働・雇用統計については、適宜WG3との合同会議なども検討する必要がある。

※※第5回以降は各委員による担当分野についての意見発表を交え議論。

（以上）